

## 弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

研究課題名： 人工心肺症例における希釈式自己血輸血を用いた止血戦略

### 研究の目的

人工心肺（CPB：CardioPulmonary Bypass）は心臓血管手術にとって必要不可欠な治療法ですが、血液の希釈や凝固因子の消費などデメリットがあります。また、その他の消化器などの手術と比較して出血量も多い手術となり新鮮凍結血漿や血小板などの輸血を施行して、血を固まり易くすることで出血しない様にする必要があります。希釈式自己血輸血（ANH：acute normovolemic hemodilution）は、麻酔導入後に患者様から採血をして、不足した血液分を代用血漿剤で補充し、手術手技が終わりある出血がコントロールされたタイミングで採血した血液を投与することにより、血が固まりやすくなり、輸血量の削減が期待されています。

その中、CPBにおけるANHの有用性は、まだまだ検討の余地があります。本研究の目的は、CPB中にANHを施行した症例における輸血量や術後出血量などの予後に与える影響を評価することです。これは、患者様への貢献に繋がる他、輸血などの貴重な医療資源の維持は、医療経済上の意義があるため、検討いたします。

研究実施期間： 実施許可日 ~ 令和8年3月31日

対象となる方： 2021年1月から2023年12月までの期間に施行した心臓血管手術において、CPBを施行した全患者様

### 利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、輸血量や出血量、手術時間、血液検査データ、ICU滞在日数、挿管時間について、標記研究課題実施のために利用します。

具体的には、CPB症例におけるANHの有用性についてを評価したいと思います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して（これを匿名化といいます）行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん/その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

|       |  |
|-------|--|
| 本件連絡先 | 弘前大学医学部附属病院 医療技術部 臨床工学部門 堀 雅弥<br>電話番号 0172-39-5457 (内線番号 4953)<br>メールアドレス me-hori@hirosaki-u.ac.jp |
|-------|--|